

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第1部門第1区分  
 【発行日】平成18年3月9日(2006.3.9)

【公開番号】特開2004-254544(P2004-254544A)  
 【公開日】平成16年9月16日(2004.9.16)  
 【年通号数】公開・登録公報2004-036  
 【出願番号】特願2003-47185(P2003-47185)  
 【国際特許分類】

**C 1 2 N 15/09 (2006.01)**  
**C 1 2 N 1/21 (2006.01)**  
**C 1 2 N 9/88 (2006.01)**  
**C 1 2 P 13/08 (2006.01)**  
 C 1 2 R 1/01 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A  
 C 1 2 N 1/21  
 C 1 2 N 9/88  
 C 1 2 P 13/08 A  
 C 1 2 P 13/08 A  
 C 1 2 R 1:01

【手続補正書】  
 【提出日】平成18年1月19日(2006.1.19)  
 【手続補正1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0006  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、メチロフィラス属細菌にリジンデカルボキシラーゼが存在しているか否かにつき鋭意研究を行った結果、メチロフィラス・メチロトロファスのゲノム上のDNA配列から、他の微生物由来である既知のリジンデカルボキシラーゼ遺伝子とやや相溶性のあるオープンリーディングフレーム(以下、「orf」と略する)を発見した。そのアミノ酸配列の相溶性としては、例えば、エシェリヒア・コリのcadA産物(E. coli K12 NCBI: AAC77092)との相溶性(同一アミノ酸となる割合)は38.18%、またIdcC産物(E. coli K12 NCBI: AAC73297)との相溶性は37.85%であった。また、このorfのアミノ酸配列は、エシェリヒア・コリのadiAの遺伝子産物(E. coli K12 NCBI: AAC77078)であるアルギニンデカルボキシラーゼにも約38.11%の相溶性を有しており、その実体は不明であった。

【手続補正2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0016  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0016】

AS1株のゲノムDNAは公知の方法により調製できるが、市販のゲノム調製用キットを使用してもよい。